



神奈川県

KANAGAWA

神奈川県悪性新生物登録事業年報

ANNUAL REPORT OF KANAGAWA CANCER REGISTRY

(第 47 報)

— 神奈川のがん —

CANCER INCIDENCE AND DEATH IN KANAGAWA

令和2年（2020年）の集計

令和 6 年 4 月

神奈川県健康医療局保健医療部

地方独立行政法人神奈川県立病院機構

神奈川県立がんセンター

は じ め に

日本のがんの罹患数および死亡数は高齢化により一貫して増加を続けており、2020年にはがんによる死亡者は年間1,123,038人、がんで亡くなる方は376,425人と、いずれも過去最多を更新しています。神奈川県は東京都、大阪府に次いで全国で3番目に多くのがんが発生しており、これは日本全体の約6.8%にあたります。神奈川県においても、増え続けるがんを克服することは重要な社会課題となっています。がん登録では、このような医療施策の基盤となるがん統計の継続的な提供のため、日々がん情報が収集されています。

神奈川県悪性新生物登録事業は、神奈川県のがんの現状や傾向の把握を目的とした「地域がん登録」に該当する事業です。本事業は全国的にも早い1970年に、当センターの前身である神奈川県立成人病センターと神奈川県医師会との共同事業として設立されました。1977年からは神奈川県が実施主体となって現在の名称となり、以後50年以上の長きにわたり、本県のがん対策に係る施策の立案、推進に不可欠な事業として継続されています。当センターの研究部門である臨床研究所のがん予防・情報学部は、現在でも登録業務および窓口機関の役割を担い、神奈川県のがん統計を支えています。

2016年には全国を対象とする「全国がん登録」が開始されたことで、各都道府県が有していた「地域がん登録」は「全国がん登録」に一本化され、順次その役目を終えることとなりました。しかし神奈川県ではこれまで長期にわたり収集してきた当県独自の情報の継続性や、この長期にわたるがん情報が医療機関や研究機関で活用されつづけている現状を鑑み、現在でも全国がん登録と並行して、本事業を継続しています。

本事業で収集されたがん情報は、医療施策の基盤であるがん統計として利用されるのみならず、医学・疫学・公衆衛生学研究においても活用されています。がん登録情報単体での利用もさることながら、疾病登録としての機能を活用し、長期的ながん発症をアウトカムとする研究や、検診の精度管理などの実際の医療現場の実地でも活用が可能です。医療従事者や研究者の皆様、自治体の皆様にもぜひ有効に利用していただきたいと考えています。

この「神奈川県悪性新生物登録事業年報(第47報)」は、県内医療機関の皆様のご協力を得て、2020年の本県の罹患、死亡及び受療状況についてまとめたものです。また、本年度からは本事業を中心に内容を大幅に改訂し、統計情報の電子的公開を進めるなど、いっそう多くの方にご覧いただけるようにしています。この報告書が関係各方面の皆様のお役に立つこととなれば幸いです。

最後になりますが、今後とも本事業の推進につきまして、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2024年3月

地方独立行政法人神奈川県立病院機構

神奈川県立がんセンター 総長 古瀬 純司